

石狩データセンターコンソーシアムの設立

地域のデータセンターが、 石狩の未来を切り拓く

石狩市は7月28日、市内で運営しているデータセンター（以下、DC）や、電力・通信インフラを支える事業者と共に、「石狩データセンターコンソーシアム（石狩DCC）」を設立しました。

石狩湾新港地域は「環境にやさしい再生可能エネルギーの集積」「地震や津波などの低い災害リスク」「札幌圏の立地による人材供給力の高さ」という強みがある。

ります。これらを背景に、市では再生可能エネルギーを活用したDC誘致を推進し、複数のDC事業者の立地によって、少しずつその成果が見えるようになってきました。

今後は、市内に立地するDCの集積効果を発揮し、石狩市を東京・関西に次ぐ「国内トップクラスのDC拠点」とへと飛躍させるため、関係する事業者が一丸となり、石狩DCCをスタートさせます。

石狩DCCでは、DCの運営に欠かせ

ない電力や通信インフラ基盤を共同で強化することや、DC事業者間での課題を共有しDCサービスの競争力を高めること、さらには地域の再生可能エネルギーを積極的に活用して石狩のDCの価値を高めることなどを検討していきます。

加えて、万が一の大規模災害時に迅速に協力し合える防災体制の構築や、IT技術者などの育成・雇用創出にも注力します。AI・ITを体験するワークショップや、業務のデジタル化に向けたセミナー・相談会などの開催を通じて、デジタルサービスによる地域課題の解決を共に模索し、市民や地元事業者の皆さまにDCを身近に感じてもらうながら地域経済を元気にしていきます。

次世代を見据えた石狩市の挑戦

インターネットやAIが当たり前になった現代、その裏側で膨大な情報を処理・保管するDCは、私たちの暮らしに欠かせないものです。石狩市は地域のDCを単なる建築物ではなく、「地域の計算資源となる大切な社会インフラ」と捉えています。最先端の計算資源を地元の教育やビジネスに生かし、市民や地元事業者の皆さまと一緒にDCの価値を分かち合いながら、「これまでにない先進的なDCのまち・石狩」の魅力を力強く発信していきます。



写真提供:石狩湾新港管理組合

●石狩DCCへの参加企業

さくらインターネット株式会社／京セラコミュニケーションシステム株式会社／合同会社石狩再エネデータセンター第1号／株式会社Flower Communications／株式会社ブロードバンドタワー／東急不動産株式会社／NTT ME株式会社／石狩地域エネルギー合同会社／株式会社リエネ／NTT東日本株式会社／北海道総合通信網株式会社（順不同、計11社）

●顧問

東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授 江崎浩氏

働く現場から

せいわ
正和住設株式会社 代表取締役

あたらし ちから

新 力さん(44歳・写真左)

今回の「働く現場」

設備工事業
正和住設株式会社

所 花川南6・4・244

問 ☎74・7003



▲HP

昭和54年の創業以来、主に石狩・札幌エリアで暖房・空調・給排水・電気など、住まいの設備全般の取り付け・交換などに対応。北海道の気候を知り尽くしたプロフェッショナルとして、省エネで地球環境にも優しい快適な住まいづくりを提案しています。



石狩市が2050年までに達成を目指す「ゼロカーボンシティ」。その実現には、行政や企業の努力に加え、市民一人一人の取り組みが欠かせません。この目標に積極的に取り組むのが、正和住設株式会社です。暖房から換気、給排水、空調、電気まで住宅設備全般を手掛ける「住まいのプロ」として、4年前から代表取締役を務める新さんは語ります。

機器の設置や交換にとどまらず、お客さまにメリットのあるエコな商品を積極的に提案することも、私たちの重要な使命だと考えています

同社には電機メーカーの開発担当者が頻繁に訪れ、新商品のテストや現場のプロとしての意見を求められるといいます。新さんはそこで得た最先端の情報を石狩市民と共有し、地域のゼロカーボン化に貢献します。

ただ、こうしたエコな提案を受け入れていただくには、見えない部分まで丁寧かつ堅実な仕事を重ね、信頼を築くことが大前提だと思っています。そんな私の信念を理解し、実行してくれる会社のスタッフたちには、本当に感謝しています

今年から石狩商工会議所青年部会長も務める新さんは、こども向けイベント「ドリームキッズシティISHIKARI2026」の運営にも尽力しました(26ページ参照)。

こうしたイベントを通じ、石狩には地域を思い、一生懸命に取り組む会社がたくさんあることを、将来を担うこどもたちに伝えていきたいですね